

「ミステリー」を活用した中学校社会科地理的分野

の授業開発

—システム思考の育成を目指して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

森 翔大

「気候危機」ともよばれる時代の社会的な問題に対応する子どもを育てるためには、社会科教育において、そうした諸問題の複雑な生成プロセスに対する深い理解力を育成することが必要である。そこで本研究では、地理教育で近年注目されている「システム思考」に着目し、その思考ツールの1つである「ミステリー」を用いて中学校社会科地理的分野の授業開発・実践を試みた。ミステリーとは、情報（断片的なストーリー）が書かれた複数枚のカードをつなぎ合わせ、1つの物語を作ることによって、特定の問題を諸要素が複雑に絡み合った「システム」として認識できるようにするための思考ツールのことである。

本研究では、「中部地方の自動車産業と地球温暖化」をテーマにした授業開発・実践を行った結果、生徒たちは「自動車産業」「環境問題」「エネルギー」の3カテゴリーに属する各カードをつなぎながら、3つのストーリー・パターンで物語を構成していたことが見出された。事後アンケート調査等での振り返りを分析すると、2つ以上のカテゴリーを組み合わせた生徒のほうが教育効果がより得られたものの、おおむねミステリーは中学校段階でも有効であること、そして要素間の関係性をとらえる「システム思考」の育成につながる可能性が本研究では示唆された。